

今後の進め方

令和3年3月26日

今後の進め方

中海・宍道湖圏域の現状・課題

①激甚化・頻発化する災害への対応

- ・中海・宍道湖圏域の各都市に、洪水・津波浸水想定区域が広く分布。
- ・災害時に山陰道が通行止めとなると、**国道9号、431号等の東西方向の幹線道路の負荷が増大し、移動に大きな支障。**

②産業振興

- ・通勤や物流等の企業活動において圏域内の結び付きが強く、鳥取県・島根県の経済を支える重要な地域。
- ・圏域の中心都市間を結ぶ国道9号、国道431号においては、**重大事故の件数が増加傾向**にあり、**喫緊の対応が必要。**
- ・高速ICアクセス性の低い中海・宍道湖圏域の北側は工業団地の分譲率が低迷。

③ゲートウェイ強化

- ・北東アジアのゲートウェイである**境港は、近年港湾機能を拡充**しているが、**高速ICのアクセス性が日本海側でワースト1位。**

④観光

- ・コロナ禍でクルーズ船寄港の取り止め、国内旅行の減少等、**観光産業は危機的状況。**
- ・出雲大社等、魅力的な観光地を有するものの、日帰りの訪問箇所数は約8割が2箇所以下にとどまるなど、**周遊観光に課題。**

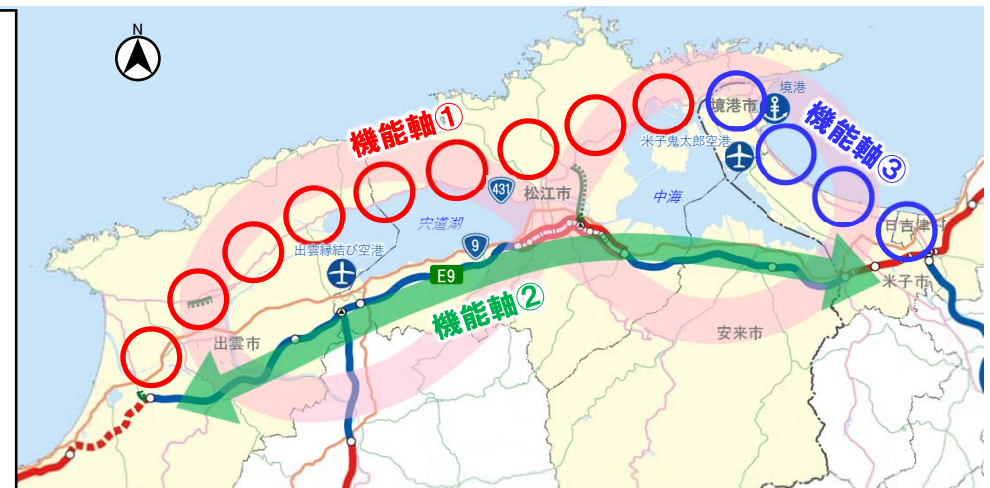
上記に加えて、中海・宍道湖圏域の高規格道路は、開通率・4車線化率が日本海側他都市圏と比較して劣っており、また、**有料・無料区間が交互に混在し、本線料金所で速度低下が発生するなど、利用しにくい状況。**

今後の進め方

地域・道路交通の緊急課題に対応し、中海・宍道湖圏域の発展を支えるため、以下の検討を進める。

機能軸①・②については、東西方向における交通課題の解消を目的とし、道路ネットワークの機能強化に向け、関係自治体と連携し、整備方針の検討を実施。

機能軸③については、空港・港湾へのアクセス強化を目的とし、規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を、関係自治体と連携して実施。



※○および矢印は具体的なルートを示したものではありません